



Title	大阪大学歴史教育研究会 成果報告書シリーズ10 まえがき
Author(s)	桃木, 至朗
Citation	大阪大学歴史教育研究会 成果報告書シリーズ. 2014, 10, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/32763">https://hdl.handle.net/11094/32763</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## まえがき

本書は大阪大学歴史教育研究会の活動報告書の第10冊で、同時に現在展開中の科学研究費プロジェクト「最新の研究成果にもとづく大学教養課程用世界史教科書の作成」（課題番号23242034、基盤研究（A）、平成23-25年度。代表：桃木至朗）の成果報告を兼ねる。

この科研費プロジェクトは、最初に近代世界システムとグローバル経済史、中央ユーラシア史、世界史と日本史の連結など大阪大学歴史教育研究会がこれまで取り組んで実績を上げてきたテーマのまとめをおこなったのちに、科学技術と環境や自然災害、ジェンダー、新しい文化史などの新領域に取り組み、従来同様の解説や授業実践報告を作成するだけでなく、最後に全体を総合して新しい大学教養課程用の世界史教科書を作ろうと企てたものである。大学用の歴史教科書というと、歴史を学ぶ意義を抽象的に述べたものか、著者が専門とする歴史と研究方法の断片を紹介するものが大半である現状で、世界史の骨組みを簡潔だが通史として叙述し、新しい方法や理論、問題領域にもふれ、読者への問い合わせや課題を盛り込んだ教科書ができれば、その意義はきわめて大きいと自負している。

この科研費プロジェクトのメンバーと分担は、以下のとおりである（所属・職名は現在のもの）。

研究代表者 桃木至朗（大阪大学文学研究科教授） 研究総括・教科書編集

研究分担者 秋田茂（大阪大学文学研究科教授） グローバルヒストリー、教科書編集

荒川正晴（大阪大学文学研究科教授） アジア史の位置づけ、教科書編集

飯島涉（青山学院大学文学部教授） 環境の世界史

飯塚一幸（大阪大学文学研究科教授） 日本史の位置づけ

伊川健二（大阪大学文学研究科招聘教員） 世界史と日本史の接続

市大樹（大阪大学文学研究科准教授） 日本史の位置づけ

内野花（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任講師）

文化の世界史

栗原麻子（大阪大学文学研究科准教授） ヨーロッパ史の位置づけ、  
教科書編集

堤一昭（大阪大学文学研究科教授） アジア史の位置づけ

中村薰（大阪大学文学研究科招聘教員） 高大連携と歴史教育

中村武司（弘前大学人文学部准教授） ヨーロッパ史の位置づけ

連携研究者 杉本淑彦（京都大学文学研究科教授） 文化とメディアの世界史

三成美保（奈良女子大学生活環境学部教授） ジェンダーの世界史

主要研究協力者 小林克則（NPO法人神奈川歴史教育研究会副理事長）

大西信行（中央大学杉並高等学校教諭）

笹川裕史（大阪教育大学附属天王寺中学校・高等学校天王寺校舎教諭）

庄司春子（同志社中学・高等学校教諭）

吉嶺茂樹（北海道有朋高等学校教諭）

特任研究員 伊藤一馬、岡田雅志、中村翼、森本慶太

以上のメンバーが、大阪大学歴史教育研究会に参加しているその他の大学・高校教員、ポスドク研究者や大学院生による事務局などと協力しながら、研究活動を進めているのである。

上記科研費プロジェクトの最終年度となる2013年度は、大学教養課程向け教科書『市民のための世界史』（大阪大学出版会、2013年度末刊行予定）の執筆・編集作業を進めると同時に、「文字から見た世界史」をテーマに設定して、外部研究者や大阪大学大学院生による研究報告を実施したほか、堺市博物館をはじめとする外部機関と連携した活動も活発に展開した。本書には、こうした本年度の成果の一部を収録している。なお、研究活動に関する詳細は、巻末の活動記録を参照されたい。

最後に、2013年度の活動にあたり参加・協力して下さった研究者、院生・学生、高校教員、事務職員ほかすべての皆さんに、あつくお礼を申し上げたい。

2014年3月 桃木至朗